

## Contents Vol.228

2022.12.21

### 01 巻頭特集

- 1 スポーツ科学部、2024年 春始動へ

### 03 NEWS

- 1 浪商学園創立100周年記念式典・祝賀会
- 2 「運動部活動指導認定プログラム」5月開講
- 3 名誉教授称号授与式
- 4 公立学校教員採用試験  
前年7人増 70名現役合格
- 5 「力強い」大学イメージ調査 本学が関西1位に
- 6 ハンドボール女子 インカレ9連覇
- 7 バスケットボール女子 Bチーム交流 フレンドリーマッチ大盛況
- 8 「サンライズキャンプ」15回目
- 9 サッカー部 河村選手JリーグいわきFCに加入へ

### 09 大体大PEOPLE

- 松葉 貴大・中日ドラゴンズ 投手

### 11 EVENT

- 1 日本レクリエーション協会 本学と池島教授を功労表彰
- 2 大阪府キャンプ協会 本学に永年功労賞
- 3 日本野外教育学会 徳田講師に若手優秀発表賞
- 4 日本生涯スポーツ学会・若手研究発表賞  
大学院・村部さんに最優秀賞 紺田さんに優秀賞
- 5 日本スポーツ心理学会 山田さんに優秀発表賞
- 6 雨山祭 3年ぶり2日開催

### 14 コラム「ボーシャー」

- コラム「窓」



# スポーツ科学部、2024年 春始動へ

大阪体育大学が変革の時を迎えている。2024年4月から体育学部がスポーツ科学部に生まれ変わることを目指し、現在、国への届け出・申請など諸準備を急ピッチで進めている。1965年の開学以来続いた体育学部の名称が変わるとともに、コース選択、カリキュラムも大幅に変更される。教育学部も2023年度から新たに幼児教育コースを新設する。57年かけて築いた歴史と伝統を大切に守る一方で、新たな時代に向けたより幅広い学びの場を提供していく。

## 体育学部とスポーツ科学部の比較

体育学部	スポーツ科学部
<p>スポーツ教育学科</p> <p>&lt;3コース&gt; 3年次から</p>	<p>スポーツ科学科</p> <p>&lt;6コース&gt; 2年次後期から</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●スポーツ教育コース</li> <li>●体育科教育コース</li> <li>●スポーツ心理・カウンセリングコース</li> <li>●スポーツマネジメントコース</li> <li>●健康科学コース</li> <li>●アスレティックトレーニングコース</li> </ul>
<p>健康・スポーツマネジメント学科</p> <p>&lt;3コース&gt; 3年次から</p>	



スポーツと未来をつなぐ人になる。

キービジュアル

### キービジュアル

スポーツ科学部構想を機に、大阪体育大学の魅力をより広く社会に伝えるため、様々な広報活動を実施している。今年度から4色からなる大学のキービジュアルを制作。スポーツ科学部・教育学部幼児教育コースを紹介するHP内のランディングページの新設、YouTubeでのPR動画の広告展開などを実施している。

2024年4月からスポーツ科学部始動に伴って、1年生が所属するスポーツ科学部、2～4年生が所属する体育学部、教育学部の3学部体制となり、27年度から2学部となる。

スポーツ科学部は1学科6コース制。スポーツ科学科に、「スポーツ教育」「体育科教育」「スポーツ心理・カウンセリング」「スポーツマネジメント」「健康科学」「アスレティックトレーニング」の各コースが置かれ、コースに所属する時期は現在の3年次から2年次後期に早められる。

現在の2学科を1学科に統合することで、スポーツの総合大学としての特長を活かして「スポーツ科学」についてより幅広く実践的な視点で学べる仕組みを作る。

学生は入学後、スポーツ科学の概要に触れた後、専門的に学びたい分野を6コースの中から選択できる。所属するコース以外の専門科目を副専攻科目として履修でき、例えばスポーツ心理に詳しい保健体育科教員など幅広い知見を備えた人材を養成する。

また、すべての授業を半期とし、より多くの科目を履修する機会を提供する。

体育学部の組織改革は、2006年度にそれまでの体育学科、生涯スポーツ学科をスポーツ教育、健康・スポーツマネジメントの2学科に改編し、「コーチ教育」「体育科教育」「スポーツ心理・カウンセリング」「スポーツマネジメント」「アスレティックトレーニング」「健康スポーツ」の6コース制として以来。

また、本学は1965年の開学以降、1992年の大学院創設、2003年の健康福祉学部開設、2015年の教育学部スタートなどの改革を続けてきた。



HPのランディングページから



スポーツの総合大学として

より幅広い学びを

WE LOVE SPORTS!



カリキュラム専門委員会  
富山 浩三 委員長

スポーツ科学部の特徴は、改革に踏み切った理由は。富山浩三・カリキュラム専門委員会委員長に聞いた。

かつて「体育」は「スポーツ」を含む概念と考えられていましたが、近年は、スポーツは種目を含むスポーツ活動全般を指し、その中に教育として用いる手段としての体育があるとされています。そのことから上位概念であるスポーツを学部名に冠することが必要ではないかと考えました。体育はすでに大学名に入っている、これはゆるぎない伝統です。このため、学部名は「スポーツ科学部」としました。

改めてスポーツ科学部の特徴は。

現在の2学科が1学科に統合されることで、学生の皆さんがスポーツ科学を全体として学んだうえで自分の本当にやりたいことを選び専門のコースに入ることとなります。幅広いあらゆる学問領域を持つ「スポーツの総合大学」



PRムービーから

動がす

である本学としては、望ましいことだと考えます。また、コース選択が2年次後期に早まることで、もし自分に志を持つ専門領域があるならば、少しでも早くその専門に触れることができず。さらに、その専門領域に加えて副専攻科目が取れ、より幅広い領域を学べる制度になると思います。

改革に踏み切った理由は。

今、コロナ禍を経験し人々の健康意識が高まっています。これは体育ではなくスポーツ科学、健康科学です。アウトドアによる地域活性化やまちおこしも体育ではなくスポーツ科学です。今は、健康、まちおこしなど、スポーツを幅広くマクロな視点でとらえることが必要な時代だと思います。

入学後、スポーツ科学の概要に触れてからコース選択することのメリットは。

高校では保健体育の授業があり、体育科で体育について学んでいる高校生もみえるでしょうが、学びの分野は限定的だと思います。体育大学でスポーツ科学の幅広さに触れていただいて、こんな領域もあるのか、スポーツをマネジメントするってこういうことなのかなど知っていたらいいので、自分の進むべき方向を考えてもらえたらと思います。

所属コース以外の副専攻科目を履修できることのメリットは。

スポーツ教育の現場においてアスレティックトレーナーの知識を生かして指導をすることなどは現実としてよくあると思います。主専攻の分野を副専攻の視点を持って取り組むことは現場では実践的ですし、応用力が身に着くのではないかと思います。例えば、保健体育の教員として就職するにしても、教育学に加えて心理学を学んでいけば心理的な課題に寄り添うことができずし、マネジメントを学んでいけば部活動の地域移行にも対応する力を持つことができます。



PRムービー

# 浪商学園創立100周年記念式典・祝賀会

## 100周年ビジョン・ロゴを発表



会場正面の記念式典・祝賀会パネル

### 浪商学園

1921（大正10）年、大阪市天王寺区に浪華商業実修学校として開学した。現在、大阪体育大学、大阪体育大学浪商中学・高等学校、大阪青凌中学・高等学校、大阪体育大学浪商幼稚園を運営する。



ホテルニューオータニ大阪で開催された  
学校法人浪商学園の創立100周年記念式典・祝賀会



記念式典であいさつし、「創立100周年を振り返って」のテーマで記念講演した野田賢治理事長

大阪体育大学などを運営する学校法人浪商学園の創立100周年記念式典・祝賀会が11月6日、ホテルニューオータニ大阪で開催され、藤原敏司熊取町長、山田紘平島本町長、八島弘之泉佐野市副市長ら来賓、各学校法人の理事長・学長・校長ら関係の方々、浪商学園の理事・評議員や各設置校の関係者、退職された教員、保護者会、同窓会の皆様など約430名が参加した。



室伏広治スポーツ庁長官からビデオメッセージが寄せられ、会場で上映された

〈記念式典〉  
学園は昨年11月15日に創立100周年を迎えた。記念式典も昨年11月に予定されていたが、新型コロナウイルスの感染対策のため1年延期となった。ロビーでは、パネルなどで学園の歴史や建学の精神、記念事業、各設置校などを紹介。クラブ活動の紹介コーナーでは、インカレ優勝のトロフィー、浪商高校の夏の甲子園優勝旗のレプリカなどが展示された。

記念式典では、学校法人浪商学園の野田賢治理事長があいさつ。大阪私立中学校高等学校連合会の辻本賢会長、日本私立大学協会の谷岡一郎副会長、一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会理事の日本体育大学・石井隆憲学長（同協議会会長の日本体育大学・松浪健四郎理事長の代読）から祝辞をいただき、室伏広治スポーツ庁長官からビデオメッセージが寄せられた。

また、野田理事長が「創立100周年を振り返って」のテーマでスライドを使って記念講演を行い、学園が火災や震災などで危機に瀕するたびに野球部が甲子園大会で優勝したためくり合わせなど学園の歴史について語った。



## 100周年ビジョン

建学の精神のもと、国際社会に目を向け、各設置校が特色を活かしながらも連携を強化し、学園が一体となって、人が人らしく幸福に暮らす社会を創造する教育を提供します。また、今以上に社会に認められる教育機関になるために、ガバナンスを強化し、将来に向けて盤石な経営基盤を確立することを目標とします。



クラブ活動の紹介コーナーには大学のハンドボール部男女、サッカー部男子、バスケットボール部女子などのインカレ優勝のトロフィーなどが展示された



会場前ロビーに掲出された「100年ヒストリー」



「Namiダン」ムービー

100周年を記念して創作されたオリジナルダンス「Namiダン」の動画が紹介された



100周年記念式典動画ニュース

〔記念祝賀会〕  
式典に続いて記念祝賀会が開宴し、会場では「浪商学園創立100周年の軌跡」の映像などが紹介された。記念祝賀会では、浪商学園の「100周年ビジョン」と100周年を機に制作されたロゴ（別掲）が、浪商学園の野田達彦企画室長から発表された。「ビジョン」は学園の10年後のあるべき姿を定めたもので、ビジョンを具現化するための4つのポイントとして「教育・研究」「組織体制・人材育成」「財務戦略」「社会貢献」を挙げている。各設置校は学園のビジョンをもとにそれぞれ独自のビジョンを策定した。「ロゴ」はこれまで学園としての統一したロゴがなかったため、100周年を機に制作された。

また、各設置校の発展に功績があった4名に野田三郎教育功労賞が贈られ、大阪体育大学浪商高等学校第8代・中学校第7代校長の安達勝氏、大阪体育大学浪商幼稚園第2、4代園長の野田むつ氏、大阪体育大学第4代学長・同短期大学部初代学長・大阪体育大学附属福祉専門学校初代校長の田口守隆氏、大阪青凌中学・高等学校初代校長の清田辰夫氏に授与された。最後に浪商学園の西尾一実専務理事が謝辞を述べて終宴した。



野田三郎教育功労賞が贈られた、大阪体育大学浪商高等学校第8代・中学校第7代校長の安達勝氏（右）

# 運動部活動指導認定プログラム

## 5月開講～部活動指導の人材養成講座



大阪体育大学は来年5月、中学生の運動部活動指導に携わる人材を養成する講座「運動部活動指導認定プログラム」を社会人対象（現教員を含む）に開講する。

日本のスポーツを支えてきた運動部活動は今、大きな転機を迎えている。スポーツ庁による公立中学校の休日の部活動の地域移行の提言（今年6月）等を受けて、全国の地方自治体は地域移行の方策とともに指導者の育成と質の担保という大きな課題に直面している。

本学は、体育・スポーツ界の人材育成を柱とする大学として、運動部活動の指導者養成に取り組んできた。2016年度から部活動における生徒指導、暴力・ハラスメント根絶、熱中症予防などの知識や技能を習得する「運動部指導実践論」を正課授業に取り入れ、2021年度には「グッドコーチ養成セミナー」を開講して受講学生を中学校の部活動指導者として学校現場などに紹介する事業を展開している。本学の「運動部活動指導認定プログラム」は、学内で学生を対象に実績を積んだ「グッドコーチ養成セミナー」のプログラムを社会人対象に発展させたもの。修了者に学校教育法に基づく履修証明書を交付することで指導者の質を保証し、社会の課題解決に貢献していく。

### 運動部活動指導認定プログラム

受講期間	春開講5～9月／秋開講10～2月
授業の方法	必修科目60時間、自由選択科目6時間 (うちオンデマンド配信56時間、ハイフレックス10時間)
定員	春開講／秋開講各50名、最少開講人数10名
受講料	2万5000円(税込み)



名誉教授称号を授与された淵本隆文前副学長（下列、右から2人目）、梅林薫スポーツ局長（同3人目）

### 名誉教授称号授与式

## 淵本、梅林前教授に授与

令和4年度大阪体育大学名誉教授称号授与式が11月22日、スターゲイトホテル関西エアポートで行われ、今年3月末で退職した元体育学部教授の淵本隆文・前副学長（パイオメカニクス）、元体育学部教授の梅林薫スポーツ局長（運動生理学など）に証書が授与された。

淵本前副学長は2015（19年）に体育学部長、19年から副学長を務め、梅林スポーツ局長は11（15年）に体育学部健康・スポーツマネジメント学科長を務め、21年からスポーツ局長。

式では、原田宗彦学長から2人に名誉教授称号証書が授与された。

淵本前副学長は「退職後、プログラミングスクールに通い、主にホームページを作ることを一から勉強している。とても難しいが、これからも続けていきたい」、梅林スポーツ局長は「現在はスポーツ局局长として、体育大学の重要なところを最後まで務めていきたい」とあいさつした。

## 公立学校教員採用試験

# 前年7人増 70名現役合格

## 教育学部は2年連続過去最多

令和5年度（来春）採用の公立学校教員採用試験合格者（延べ）が、12月7日時点で前年度を7名上回る70名に達した。うち、教育学部は前年度比8名増の59名で、2年連続で過去最多を更新した。平成27（2015）年4月に開設された教育学部はこれまで1期生が44名、2期生が41名、3期生が42名、昨年度は4期生が51名合格している。

両学部を合わせた校種別では、小学校45名、小・中学校3名、中学校7名、高等学校2名、特別支援学校12名。自治体別では、大阪府11名、大阪市7名をはじめ関西で計30名。鳥取県で9名、愛媛県、高知県、北九州市で各3名が合格するなど合格者は北海道から長崎県に及んでいる。合格者は今後、補欠合格などでさらに増える可能性があるほか、既卒者も高校を含む各校種に多数が合格しており、例年、100名以上が合格している。

## 清水俊彦 教職支援センター長

令和5年度教員採用試験では、両学部とも意識が高い学生が多かった印象があります。教員の熱心な指導と学生の気持ちがかみ合った結果が70名の合格につながったと思います。本学では、大規模校とは違って1人1人の学生と接する時間や頻度が多いのが特徴で、面接練習ではノウハウやテクニックを伝えるだけでなく、筆記試験の準備の進捗状況や不安に思っていることなどを何でも相談してもらっており、その点も結果につながっているのではないかと考えています。



教員採用試験に向けて清水俊彦教職支援センター長の模擬面接に臨む学生

## 植木章三 教育学部長

令和5年度教員採用試験について、教育学部では、受験5期目で過去最多の延べ59名の合格者を出すことができました。合格率（受験者に対する合格者の割合）は48.4%です。教育学部は、実践力のある教員養成を目的とした学部であり、まずは教員になるための関門である教員採用試験に、多くの学生が現役でパスしてくれたことを大変嬉しく思っています。これもひとえに、教員採用試験対策にご尽力をいただいた先生方や教職支援センター職員の皆様のお力添えがあって、受験者も集中して試験勉強に打ち込むことができた成果だと思えます。この結果を聞いて、来年受験を控える後輩達も「自分も合格するぞ!」という強い決意を抱くことを期待しています。

## 「力強い」大学イメージ調査 本学が関西1位に

「リクルート・カレッジマネジメント」2022年10〜12月号に掲載された進学ブランド力調査の「イメージ項目別ランキング」で、「力強い」大学として、大阪体育大学が関西エリアの高校に通う3年生を対象にした調査で16・5%の支持を集めて1位になった。前年度の5位から4つランクアップした。

「クラブ・サークル活動が盛んな大学としては、前年度より順位を18上げて関西6位。「分野別志願度ランキング」では、大学で「体育・スポーツ」を学びたいと回答した高校3年生が志願したい大学として前回同様の関西2位に。「教育・保育」では、前年度より6ポイントアップの関西8位だった。

## 関西エリアの高校3年生対象

### イメージ項目別ランキング <力強い>

- 1 大阪体育大学
- 2 大阪大学
- 3 東京大学
- 4 日本体育大学
- 5 神戸大学
- 6 青山学院大学
- 7 近畿大学
- 8 慶應義塾大学
- 9 立命館大学
- 10 早稲田大学

<調査概要> 関東、東海、関西エリアの高校に通う2023年3月卒業予定の高校3年生計12万名を対象に今年3〜4月に実施。有効回答数5334名

※「進学ブランド力調査2022」リクルート進学総研調べ

# ハンドボール女子 インカレ9連覇 最長記録を更新



連覇回数に合わせて9回胴上げされる楠本繁生監督

【優秀選手賞】岡田彩愛（体育4年）石川空（体育2年）下馬場燎（体育4年）松浦未南（体育3年）  
【特別賞】和田薫（体育3年）  
【優勝監督賞】楠本繁生  
（楠本繁生監督の話）  
代表（監督の）活動と並行しての1年間だったので、チームを離れる時間もあるなかで、選手たちが自分たちでも努力を惜しまなかったことが今日の集大成につながった。来年も連覇をつなぐために一から積み上げていきたい。  
〈岡田彩愛主将の話〉  
連覇をつながなければいけない重圧があり、自分を見失いそうになることもあったが、このチームのみんなが9連覇を達成できてほっとしている。

高松宮記念杯男子第65回・女子第58回全日本学生ハンドボール選手権大会は11月7日、愛知県で決勝が行われ、本学女子は東海大学を34―22（17―13、17―9）で破り、9大会連続10回目の優勝。男女を通じて史上最長となる9連覇を達成した。



岡田彩愛選手

日本代表での国際試合も経験している岡田彩愛（体育4年）、石川空（体育2年）を中心に試合をコントロールし、GK下馬場燎（体育4年）の好セーブなどで相手を振り切った。

試合は一進一退の攻防の末、本学が75―66で勝利。閉会式で武庫川女子大学の坂井和明監督は「両大学ともBチームはAチームのサポートをしながらも帰って練習をし、今日の試合を迎えたことをうれしく思う」、本学の村上なおみ監督は「たくさんの人に応援していただき胸が熱くなっている。この交流戦は出場機会の少ないBチームが、自分たちが主体的に取り組んできた成果を発揮する場」とそれぞれあいさつした。

試合の他にも、2年前にコロナ禍で交流戦が中止となった卒業生が集い

## バスケットボール女子 Bチーム交流戦 フレンドリーマッチ大盛況

ミニゲームをしたほか、ダブルダッチ部のパフォーマンクスなどイベントも盛りだくさんで会場は大いに沸いた。



交流戦の後で記念撮影する両チーム。インカレで互いに応援し合うなど交流を深めている

# 「サンライズキャンプ」15回目 福島復興支援く学生在報告会



サンライズキャンプに参加した学生ら＝南相馬市の海岸で



原発事故などの被害を伝える伝承館で見学する学生

一行は仙台空港に到着した後、津波や原発事故の被害などを伝える東日本大震災・原子力災害伝承館や地震・津波の被害の状況がほぼそのまま残る震災遺構の浪江町立請戸小学校などを見学。体育大学生だからこそ求められる

福島復興支援「第15回サンライズキャンプ」が9月に福島県南相馬市などで行われ、参加した学生の活動報告会が11月24日、C号館で開かれた。「サンライズキャンプ」は東日本大震災が起きた2011年の10月、福島県から大阪に避難した子どもたちと大学構内で1泊のキャンプを行ってスタートした。今年は応募があった学生15名と教職員で9月19～21日の2泊3日で行った。



被災地の高齢者らとスポーツ交流をする学生

活動としての地域の方々のスポーツ交流、小学校での児童とのドッジボールや縄跳び遊びや地域スポーツクラブの子どもたちとのスポーツ活動、被災地にある神社での清掃活動などに取り組んだ。報告会では、学生が交代でそれぞれ活動についてスライドを使って説明。体育学部健康・スポーツマネジメント学科4年の樋口大輝さんは「震災から10年以上が経過した今、被災地で体大生にできることは何かを考え、最善を尽くすことが大切であると学んだ。先輩がつかない東北とのつながりをこれからも新しいかたちでつないでくれることを祈っている」と話した。

## サッカー部 河村選手 JリーグいわきFCに加入へ

河村選手は「幼い頃からの夢であるプロサッカー選手としてのキャリアを、いわきFCという素晴らしいクラブでスタートできることを大変うれしく思います。1日も早く試合に出て、チームの勝利に貢献できるように頑張ります」などとコメントしている。

サッカー部男子の河村匠選手（体育4年）が来季にプロサッカーJリーグ・J2に昇格するいわきFCに2023年シーズンから加入することが11月16日、内定した。河村選手は千葉県出身、福島県・尚志高校卒業。身長177センチ、68キロでポジションはDF。



河村匠選手



## 移籍を機に剛から柔の投球へ プロは「自己責任」問われる場



中日ドラゴンズ投手

### 松葉 貴大さん

松葉 貴大（まつば・たかひろ）  
1990年8月14日生まれ、32歳。大阪体育大学体育学部スポーツ教育学科卒、45期。大学ではリーグ通算31勝を挙げ、2012年秋のドラフト1位でオリックス・バファローズに入団。2年目の2020年に8勝。2019年のシーズン中、中日ドラゴンズに移籍。昨年、今年は6勝をマークした。

高校時代にひじを痛めて諦めた投手に大学で復帰し、投げることができ喜びを味わう。プロの世界では3年目に厳しき、難しさに直面したが、トレードを機に環境を変え、自分が変わること成功。先発陣の一角としてチームを支える

東洋大姫路高校3年の春、センバツ4強。大阪体育大学に進んだ理由は。

プロは、同学年にレベルの高い選手が多数いて難しいと思っていました。自分になりたい職業は何だろうかと考え、学校の先生、高校のコーチや先輩に体大OBがいて勧めてくれたのもあり、決めました。

大学の野球部はどんなところ。

部員が200人以上いて競争が激しく、実力のある選手が多かったですね。同級生に宮川将投手（元楽天）、後輩には酒居知史投手（現楽天）がいました。

高校1年の時、ひじを痛めて外野手に転向。大学で投手に復帰した分けは。

1年の春、ライバル校の左腕対策として左腕の自分が打撃投手を務めました。その時、自分でも驚くようなボールを投げられた。先輩から「投手をや

った方がいい」と言われ、何日か考えて、自分が最初にやりたかったポジションに戻ると決めました。再びマウンドに立って一番に感じたことは、恐怖心。でも痛みが出なかったことがうれしく、また投げられる喜びを感じながらマウンドに立ち続けました。

2年春、3、4年春秋にリーグ戦で優勝し、リーグ通算31勝。2012年秋のドラフトでオリックスから1位指名。プロに入って感じたことは。

毎年、ドラフトで自分と同じかそれ以上の才能が入ってくる。その中で勝ち残らないといけない。金子千尋さん（2010、14年最多勝）、平野佳寿さん（2014年最多セーブ）らは体格もすごいですが、練習に取り組む姿勢が超一流でした。

1年目に4勝、2年目は8勝と順調に白星を重ねた。

2年目は先発ローテも守り大きく飛躍できるかと思いましたが、3年目にプロの厳しき、難しさを痛感しました。相手の対応力です。それまで抑え込んでいた打者に打たれ、戸惑い、苦しみました。

7年目の2019年、シーズン途中にトレードで中日に移籍。トレードを告げられた時の気持ちは。

単純にうれしかった。その年は先発ローテに入ったのですが、勝てずに2軍落ち。山本由伸投手が台頭してきた



ころ。自分を変えなければいけないと葛藤していた時期です。自分なりに技術的なことも含めていろいろ試したが、結果が出ない。「環境を変えるしかない」と思っていた時のトレードでした。

——トレードで環境は変わったか。

新しい指導者やチームメイトとの出会いは大きかった。それまで自分はコントロールはアウトで、ボールの勢いで勝負するタイプでした。しかしコーチから「松葉はそういうピッチャーじゃないんだよな」と。はっと気づかされました。コースを丁寧に突くスタイルに取り組みました。

——翌2020年、移籍後初勝利

シーズン初先発となった7月のDeNA戦です。オリックス時代は「今日打たれたら2軍かな」などとマイナスの気持ちを抱えてマウンドに上がっていました。この時の先発では「今年だめならクビ」と自分でも覚悟を決めて、緊張せず開き直れたと思います。

——昨年、今年といずれも6勝。安定した成績を収めている。

2020年に投球スタイルを変え、ドラゴンズで投手を続けていくための土台というか基盤を作りました。そこに、自分なりの良さを毎年、加味していきたい。今年はずべての球種でストライクを取れることを心掛けました。

——プロで選手を続けていくために、本学時代に経験したことは役立っていますか。

体大の野球部は監督に指示されるのではなく、練習では自分で考え自分で行動する環境が他大学に比べてとりわけ強いと思います。自分で考える意識はプロで役立っています。

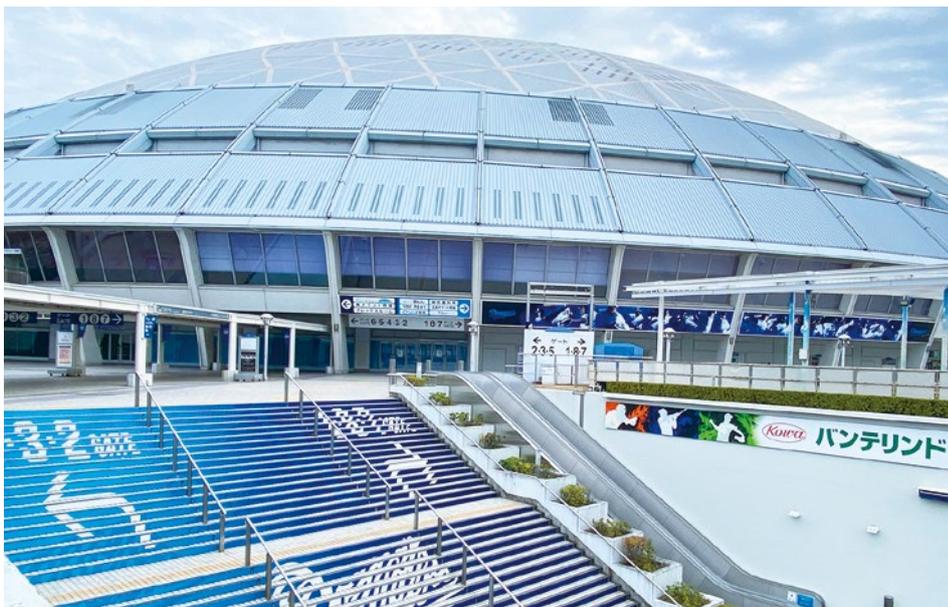
——改めてプロとはどんな世界か。

責任が問われる場所です。結果を出す出さないと自己責任で、コーチに責任はありません。結果が出なければ、給料は下がるし職を失う。会社員では考えられないでしょうが、普通に働いてはだめな世界です。逆に自分が結果を出せば同じポジションの選手が

職を失うことにもつながり、残酷な世界でもあります。

——プロ選手にせよ企業人、教師にせよ、学生は卒業後、それぞれ進んだ道を極めていくことになりました。学生へのアドバイスを。

やはり一番大切なのは、まず学生生活を楽しむことです。そのうえで大学を巣立っていろんな業種についていく中で、覚悟を持ってその職業に取り組むことが、それぞれの世界で大きく飛躍していくために必要になると思います。



中日の本拠地、バンテリンドームナゴヤ

# 日本レクリエーション協会 本学と池島教授を功労表彰



本学のレクリエーション教育に長年尽力した福田芳則元副学長（左）と池島明子教授

9月17日姫路市で開催された「第76回全国レクリエーション大会2022ひょうご」の開会式で、大阪体育大学と池島明子体育学部教授がそれぞれレクリエーション運動の普及振興に多大な功績をあげた功労団体・功労者として日本レクリエーション協会から表彰された。

本学は1965年の開設時より当時の体育系大学としては他に例のないレクリエーション教育カリキュラムを設置。85年からレクリエーション指導者養成の課程認定校としてカリキュラムを継続・拡充し、多くの課程認定校のレクリエーション担当教員を輩出するなどレクリエーション指導者養成に大きな成果をあげてきた。課程認定校としては栄えある初の功労団体としての受賞。池島教授は長く本学のレクリエーション教育担当者として、また大阪府下のレクリエーション課程認定校のとりまとめ役を務めてきたことが評価されての受賞となった。

## 大阪府キャンプ協会

## 本学に永年功労賞

大阪府キャンプ協会の30周年記念式典が10月30日、大阪市で開催され、本学が大阪府キャンプ協会永年功労賞を授与された。

本学は1965年の開学当初から野外活動実習を実施し、キャンプを通じた人材育成に取り組んできたほか、野外活動部が積極的な活動を展開してきた。

式典では、本学関係者を代表して伊原久美子・体育学部教授が、2014年まで本学の第7代学長を務めた永吉宏英会長から表彰状を受け取った。

伊原教授、富山浩三教授、徳田真彦講師は11月2日、原田宗彦学長に受賞を報告。原田学長は「野外活動やレクリエーションは本学の教育の大きな柱。野外教育の発展に尽力された永吉元学長のDNAは本学の先生方に脈々と受け継がれており、受賞は大変名誉なことです」と話していた。

## 徳田講師に 若手優秀発表賞 日本野外教育学会

日本野外教育学会第25回学会大会が10月1、2日に鹿児島大学で開催された。徳田真彦講師が鹿屋体育大学の棟田雅也助教授らとまとめた「中学生に対する自然体験活動が地域愛着および行動意図との関係性に及ぼす影響―南房総学に着目して―」が若手優秀発表賞を受賞した。



徳田真彦講師



若手優秀発表賞  
動画ニュース



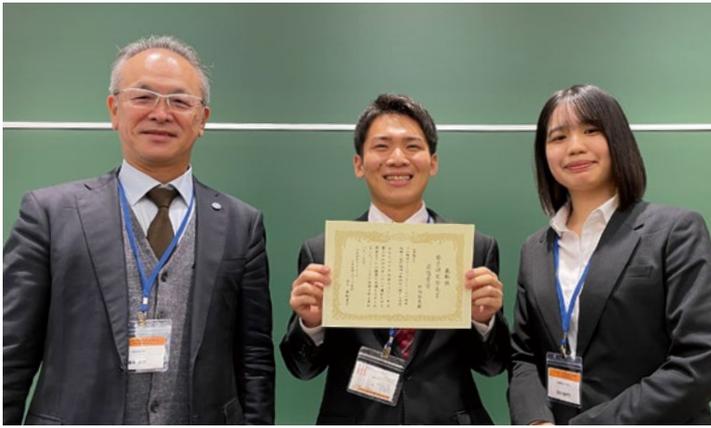
永吉宏英大阪府キャンプ協会会長（左から2人目）から表彰状を授与された伊原久美子教授（同3人目）、富山浩三教授（右端）、徳田真彦講師（左端）

# 大学院・村部さんに最優秀賞

## 紺田さんに優秀賞

日本生涯スポーツ学会の第24回大会が10月29、30日に愛知東邦大学で開催された。若手研究者7人による口頭の研究発表があり、若手研究発表賞最優秀賞が本学大学院博士前期課程1年の村部聡亮さんに贈られた。優秀賞も本学大学院博士後期課程3年の紺田俊さんが受け、本学が受賞を独占した。

村部さんは藤本淳也研究室の所属で、研究発表の題



▲最優秀賞の村部聡亮さん(中)、左は指導教官の藤本淳也教授



◀優秀賞の紺田俊さん(右)、左は日本生涯スポーツ学会の萩裕美子会長

目は「プロ野球チームファンのチームの価値認識とSDGs関連活動認知に関する研究」。オリンピックを対象にツイッターを利用して、ファンが球団の社会的・経済的価値をどう認識しているか、球団のSDGsへの取り組みをどの程度理解しているかなどを研究室のプロジェクトとして調査した。

研究発表の場では授賞理由について、「今後、研究が社会や球団の活動に活かせるなど発展が見込める」などと説明があった。

村部さんは「10分の短い発表時間の中で研究の社会的意義、必要性とともに分析結果と考察を分かりやすく発表するためにスライドなどを多用しました。受賞に恥じないよう今後も精進したい」と受賞を振り返っている。

紺田さんは富山浩三研究室の所属。鈴鹿大学国際地域学部で助教を務める。研究発表の題目は「日本ハンドボールリーグ観戦者の行動意図に及ぼす影響」サービスピロフィット・チェーンの視点から」。ハンドボールファンがどのような理由で試合観戦に来ているか、こういった部分に満足すると「もう一度観戦したい」と思うかなどの観戦行動を調査した。

紺田さんは「大学4年生から参加している学会で受賞することができ、光栄です。今後もスポーツが地域にもたらしている社会的な価値について研究していきたい」と話している。

# 大学院・山田さんに優秀発表賞

## 日本スポーツ心理学会



山田弥生子さんと土屋裕陸教授

大学院博士後期課程3年の山田弥生子さんが9月30日から10月2日まで新潟市で行われた日本スポーツ心理学会第49回大会で口頭発表を行い、優れた発表として優秀発表賞を受賞した。

受賞題目は、「大学生アスリートのライフスキルと基本的心理欲求の関連」。指導教員の土屋裕陸教授との共同研究により、スポーツ活動においてアスリートの自律性、有能感、関係性といった基本的心理欲求を充足させることが、選手のリフスキル獲得・形成に役立つことを示した。

なお、山田さんは社会人時代にジュニアのチャリティーディングのコーチをしていたことがきっかけで、本学大学院に入学した。

現在は博士論文を執筆しながら、日本体育大学助教として勤務し、日本スポーツ協会のコーチデベロッパー(コーチのコーチ)としても活動している。

# 雨山祭 3年ぶり2日開催 地域の方迎え、芸人ライブなど盛大に

大学祭「第55回雨山祭」が新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、3年ぶりに地域の方々にもご参加いただき、10月29、30の2日間、開催された。



恒例「のど自慢大会」



ボーシャーくんと

今年のテーマは「暁（あかつき）」。新型コロナウイルス感染症や災害など暗いニュースが続く中、雨山祭に参加していただいた皆さんに、明け方のような感動を届けたいという思いが込められた。特設ステージ横に並んだテントでは、学生がくじ引きや飲料販売などに取り組み、キッチンカーではたこ焼き、唐揚げ、ハンバーガー、チョコバナナなどのグルメが提供された。地元の手話サークルなどが小物や衣料品を格安販売するバザーを開催した。

球技イベントとして第6体育館では「ドッジボール」「バレーボール」が行われ、事前に参加を申し込んだ学生が参加し、スポーツを楽しんだ。

ステージではダンス部による華麗なダンス、ダブルダッチ部のロープ・パフォーマンズが披露され、「ギネスにチャ



特設ステージ横に並んだ模擬店の様子

レンジ（大体大オリジナル）では、ベクトルボール投げや踏み台昇降などで参加者が競い合った。恒例の「のど自慢大会」では元気いっばいの歌声で会場を盛り上げた。

また、今年はお笑い芸人を多数招いたのが大きな特徴。サバンナ八木さんが司会したビンゴ大会やレイザーラモン、マユリカ、ヒューマン中村、ツートライブ、ガクテンソク、ザ・ぼんちさんらのお笑いライブで、会場は大いに盛り上がった。

終了後、雨山祭実行委員会の福田翼委員長（教育2年）は、「今年3年ぶ



第6体育館で行われたバレーボール大会

りに2日間の開催となり、準備は、以前の雨山祭実行委員にイベントの詳細を聞くところから始めた。4月から準備して半年間いろいろ大変なこともあったが、参加したお客さんと実行委員に感動を届けることができて本当によかった。今年先輩たちに支えられたが、来年は後輩たちを支えるために頑張りたい」と話していた。

また、ケーブルテレビの「COMが雨山祭のロケを実施し、「クイズ体大王」や「ギネスにチャレンジ」など体大生のエネルギーが後日、番組で放送された。



ぼくの20代は、ほぼ1970年代だった。大学院生時代を含めて学生という立場で気楽に貧乏な生活をしてきた。その頃の思い出が今夏の吉田拓郎の引退宣言でよみがえってきた。

70年代はフォークな季節だった。吉田拓郎や井上陽水を伴走者にして走り抜いたように思う。ただそう言うけど、高校生になるまでフォークソングはほとんど知らなかった。かろうじてラジオで聴いていたのは、ジョン・バエズの「ドナドナ」や「朝日のあたる家」くらいだった。それはまさに点（ピンポイント）で聴くだけで、ジャンルとしての広がりではなかった。

中3の修学旅行のバスでは、舟木一夫の「学園広場」をなんとか歌うような子どもだった。テレビの歌番組はほとんど見なかったの、はやりの音楽情報はまったくといっていいほど知らなかった。たまに従姉の家で彼女らのごひいきの「ロッセ 歌のアルバム」や「ザ・ヒットパレード」で歌謡曲や洋楽の片鱗に触れていただけである。

そんなぼくがふいにフォークソングと出会った。それは高校に入學してすぐの頃だった。英語の文法の授業が終わると、3、4人の上級生が教室に入ってきた。教壇に立つとその中の一人が軽音楽部の勧誘を始めた。黒板には、英語教師の板書書きがそのまま残っていた。過去分詞(Past Participle)の説明で「P.P.」と書かれていた。軽音楽部の一人が、それをみるとすぐに「& M.」とつけ加えた。意味がわからなかった。すると後ろの席の女子がクスツと笑ってささやいた。

「ピーター・ポール&マリー」

翌日さりげなくクラスをリサーチして確信した。ぼくの知らないうちに、P.P.M.の「500 Miles」(1962年)や「パフ」(1963年)が学校の音楽シーンを席卷していたのだ。みんなが英語で歌えることに驚いた。

ほとんど洋楽に触れることがなかったぼくは、これをきっかけにジョン・バエズという点からピーター・ポール&マリーに線がつながり、それとは別の線も出てフォークロックを経由してボブ・ディランを見つけた。

そんなことがあったあとすぐに中学時代の友だちからバンドを組むから「歌えよ」と言われて、The Woodpeckersに参加した。当初ビートルズの「And I Love Her」をコピーしたがあまりうまくいかず、いろいろあって、けっきょく女の子がわりと簡単にキャーと言ってくれるザ・タイガースのコピーに流れてしまった。当然なんの成果もないまま練習をしていて、そのうちになぜかみんながトランペットを練習しだして、ぼくは抜けた。

高2(1969年)の1月、東京大学の安田講堂で全共闘と機動隊の衝突があり、東大入試が中止された。大阪では府立高校で高校紛争がおこっていて、ぼくの高校も全校集会や学校封鎖と忙しくしていた。まさに政治の季節である。こうした時代にフォークソングという新しいジャンルが芽生え、それが瞬く間に大きなうねりとなっていった。時代のせいなのか、フォークソングの固有性なのかわからないが、反体制・反商業主義のタグを付け、みんなギターをもって巷にあふれていた。ぼくは、やがて反体制は反体制という体制になり、反商業主義でビジネスをするような時代が来ると予感し

て眩暈に似た感覚をもつようになった。方向がわからなくなっていた。「眩暈をするときは幸せなときよ」と教えてくれる女(ひと)がいたがそうだろうか。

高校の文化祭では最終日夕方にファイヤーストームで大騒ぎをする。最後に肩を組んで岡林信康の「友よ」を歌った。当時反体制の象徴のような曲だった。ぼくはみんなと違いその曲になじめなかった。肩を組むのも嘘っぽくて嫌だった。それでもたき火を囲んで大声で「夜明けは近い」と叫んでいたことを覚えている。ちょうどこの時期から「ナベサダとジャズ」を聴くようになり、1970年3月に高校を卒業した。

大学に入った頃はまだ若者は混乱し互いにぶつかりあっていた。フォークソングはあまり聴けなかったが、1971年10月にサンケイホールで「野坂昭如 高石ともや 浅川マキ フリーキッシュコンサート」があり、「受験生ブルース」の高石ともやを聴きたくて足を運んだ。そこではじめて浅川マキの「夜が明けたら」「ちっちゃな時から」「めくら花」を聴き、魂をつかまれ、そのまま今もフォークでもジャズでもブルースでもなく、でもそのかけらのようなきらめきがいっぱい詰まった唯一無二の歌唱を聴き続けている。

そんな頃に吉田拓郎が突然あらわれた。1972年の「結婚しようよ」、つづけて「旅の宿」とヒットした。あまりのかつこよさに驚いた。この年の前後に、井上陽水も「傘がない」「夢の中へ」「心もよう」とたてつづけにヒット曲を出している。当時ぼくは京都北山通のアパートに住んでいた。二人の曲、とくに「心もよう」は京都のどこにいても、24時間いつでも耳にしていた印象がある。

反体制というタグのついたフォークな季節の中で、吉田拓郎は、「結婚しようよ」で「ぼくの髪が肩までのびて 君と同じになったら・・・結婚しようよ」と政治とかけ離れた日常を歌っていた。このため「フォークソングではない」と批判され、「それならフォークでなくていい」と居直っていたのもかつこよかった。

「結婚しようよ」を聴くと思出すことがある。高2のとき、化学実験室の机に「授業はおもしろくない」といたずら書きをした。すると翌週、それに絡んだコメントを同じようにいたずら書きする下級生がいた。そんなことが続き、その机は交換日記のようになった。いま考えてみると衆人環視のやりとりだった。そんなある日下級生はぼくを見たくなり友だちと化学実験室に来た。そこからぼくたちはつきあいだした。彼女は、肩まで髪を伸ばしていた。当時ヒットピーカルチャーの影響をお上品に受けていたぼくは髪を中途半端に伸ばしだしていた。伸びるのに比例して、彼女は離れていった。そのことが不思議だった。「結婚しようよ」を聴いて、なおさら謎が深まるばかりだった。でもいま当時のぼくの写真を見ると、ぼくは彼女の手を握って「わかる」と言える。

吉田拓郎は最後のアルバムを6月28日にリリースした。そのタイトルがいい。

『ah一面白かった』

これでいきますか。



◆◆寝不足の人も多かったのではないかと。サツカIW杯で日本は優勝経験のあるドイツ、スペインに勝利。Jリーグが開幕した1993年、両国は「坂の上の雲」でした。PK戦で敗れたクロアチア戦は、平均個人視聴率は20.2%（関東地区。約2500万人がテレビを見て、ABEMAの視聴数と合わせて約5000万人が観戦したことになる）◆◆一方で放送権料の高騰は深刻です。当初、地上波各局は手が出せず、ABEMAが200億円を出資したことで、何とか地上波中継が実現したとも言われています。将来、地上波でW杯が視聴できない時代は来るのでしょうか。ABEMAは無料で視聴でき、インターネットTVの可能性を広く社会にアピールしました。でも、次大会は有料放送が権利を獲得したらー。実際、アジア最終予選では、アウエーの中継は有料放送のDANZINだけでした◆◆今回、多くの子どもたちが日本代表の試合を見て、サッカー、さらにはスポーツの魅力を知ったと思います。お金など大人の事情がすべてではない、国中が注目するようない試合を見ることは大切な権利なのではないでしょうか。英国では法律で、重要な大会は貧富の差に関わらず、無料で視聴する権利が保障されているそうです。「スポーツは社会の公共財。熱狂を機にそんな意識が根付くことを願います。」

【大坪康巳】



**本物**を学び、極める

## 大阪体育大学

---

【大学院】

- スポーツ科学研究科  
博士（前期・後期）課程

---

【体育学部】

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】

- 教育学科

---

大学事務局

庶務部、教学部、入試部、広報室  
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設等

図書館、スポーツ局、社会貢献センター  
情報処理センター  
スポーツ科学センター  
国際交流センター、学習支援室

---

<https://www.ouhs.jp/>

OUHSジャーナル 2022年（令和4年）12月21日（水）

発行所：大阪体育大学 広報室 発行責任者 大坪康巳 協力：教育後援会・学友会  
大阪府泉南郡熊取町朝代台1-1 電話（072）453-7021 FAX（072）453-8818